

第3回流山市子ども・子育て会議 会議録

日時

平成27年11月20日（金）午前9時30分～11時30分

場所

流山市役所 第1庁舎 4階 第3～4委員会室

出席委員

岩倉委員、古宿委員、櫻庭委員、山中委員、藤原委員、柏女委員、平田委員、
田中委員、吉川委員

欠席委員

岡本委員、鈴木委員、仲宗根委員、藪本委員

事務局

矢野子ども家庭部長、石井子ども家庭課長、秋元保育課長、
熊井子ども政策室長、小谷子ども家庭課主任主事、佐々木子ども家庭課主事

傍聴者

0人

議題

- (1) 「子どもをみんなで育む計画～流山市子ども・子育て支援総合計画～」
の点検及び評価について
- (2) その他

資料

配布資料一覧

- 資料 1 第3回流山市子ども・子育て会議次第
- 資料 2 アウトカム評価について
- 資料 3 「子どもをみんなで育む計画～流山市子ども・子育て支援総合計画～」
のスケジュールについて
- 別紙 1 【計画策定時】ヒアリング調査対象施設（非公開）
- 別紙 2 【点検及び評価】アンケート調査対象施設（非公開）
- 別紙 3 子育て支援施策に関するアンケート

別紙 4 グループインタビューの設問内容

議事録（概要）

（事務局）

ただ今から、第3回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

本日の会議は、お配りしました資料1「第3回流山市子ども・子育て会議次第」に基づきまして進めさせていただきます。

まず、お配りしました資料の確認をさせていただきます。

《資料の説明》

次に会議の成立について申し上げます。附属機関の会議は、条例第5条第2項及び3項の規定により、委員の半数以上の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによるとされております。本日の会議につきましては、委員13名中9名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

それでは会議に先立ちまして、子ども家庭部長から、一言ご挨拶させていただきます。

（子ども家庭部長）

本日は、早朝から、また雨模様の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。現在、市では、予算の編成時期ですので、今年度と来年度の事業計画について御説明をさせていただきます。

まずは、保育所整備についてですが、12月1日にけやきの森保育園おたかの森第二の認可保育所がオープンします。来年4月1日に認可保育所が3園、小規模保育所が2園、定員合計を合わせまして、306名の保育所の整備に着工しています。

また、保育所整備だけではなく、保育士の不足に対応した確保策としまして、平成26年度から、市内の私立保育所に勤める予定の方に、2年間限定の就学資金の貸し付けを行っています。市内に勤めていただき、5年間就労を継続していただきますと、1年分の就学資金を免除するという内容です。この制度は、当初は2年間の予定でしたが、今後4年間、平成31年度まで継続する予定です。その他、保育士確保のために、新たな事業も予定しています。

次に、保育所整備だけでなく、学童クラブも整備を取り組んでいきます。現在、定員40名のひまわり第2学童クラブの整備を実施しています。来年度も、

増加する児童のために、数か所の整備を予定しています。

さらに、研修制度に関してですが、従前から潜在保育士のための研修を行っているところであるが、大幅に増員していく予定です。また、保育士の確保だけでなく、学童クラブの支援員、ファミリー・サポート・センターの提供会員や小規模保育事業所の保育従事者の確保も急務の課題となっています。そこで、国の新制度の子育て支援員研修制度を本市でも実施して、人材の確保に努めていきたいと思っております。以上が予定事業になりますので、よろしく申し上げます。

(事務局)

それでは、ここから審議に入りますので、会長の柏女委員に議事進行をお願いいたします。柏女会長よろしく願いいたします。

(会長)

おはようございます。前回会議で、委員の方々からたくさんの貴重なご意見を頂戴しました。それを受けて、点検及び評価の具体的な案、前回の意見を盛り込んだものを事務局から提示していただいております。前回欠席された方、また出席されていた方でも、さらなるご意見をいただきたいと思っております。

それでは、事務局から、議題1の「子どもをみんなで育む計画の点検及び評価について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

《事務局説明》

(会長)

それでは、今、事務局から説明がありました。前回の意見を踏まえて、今回はアウトカム評価を中心に御意見を伺いたいという提案がされています。

確認ですが、前回、アウトプット評価について、新しい事業などは窓口に、簡単なアンケートを置いて利用者の声を吸い上げていくとか、虐待防止に関しては、直接支援している人の声を聞いた上で、アウトプットの評価をしてはどうかということでしたが、それらは別途ご検討するのでしょうか。

(事務局)

今回は、アウトカム評価を中心の議論と考えていまして、後日、最終的な評価の案を決定する際に、ご報告したいと思います。

(会長)

わかりました。今日は、アウトカム評価を中心に御意見をいただき、最終的にその他の評価についてもご報告していただけるということです。

今日は、アウトカム評価のアンケート、ヒアリングの方法、また、アンケートを実施する際にどの場所に箱を設置するのか、3つ目は、グループインタビューで子どもたちの声を聞く内容や方法の、大きく3点について、御意見をいただければと思います。御質問ありますか。

(吉川委員)

グループインタビューの対象年齢としては、小学生ですか。それとも、中高生ですか。

(事務局)

小学生だけではなく、小学生以上の子どもを対象としたいと考えています。

(吉川委員)

インタビューの内容をみると小学生向きなので、中高生には高学年向きにした方が良いと思います。また、同時にインタビューをするのは難しいので、小学生は小学生の場、中高生は中高生の場として、ご検討いただきたいと思います。

(会長)

中高生にインタビューすることはどう思いますか。

(吉川委員)

小学生時代は過ごしていてどうだったのか、や不登校児などの意見も聞きたいと思うのですが、知らない人がインタビューしても答えられないと思うので、インタビューが誰になるのかと思います。

(事務局)

わかりました。他にいますか。

(岩倉委員)

つばさ学園は、保護者対象ですか。子ども対象ですか。

(事務局)

保護者対象です。

(岩倉委員)

わかりました。つばさ学園にアンケート回収箱を置くとする、保護者は毎日通っているわけではないので、配布という形になると思いますが、大丈夫ですか。ただ、どのくらい回答をもらえるかはわかりませんが。いつ頃、配布をすれば良いのか決まっていれば、案内をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

はい。

(会長)

まずは、アウトカム評価については、アンケートとグループインタビューの2つでいくということで良いですか。アンケートの対象施設について、網掛けの部分は変更可能ということですが、いかがですか。

(櫻庭委員)

支援センターについては利用率が高いところなので、良いと思います。保育所に関しては、まだ新しいところで、転入されてきた方々が非常に多い地域なので、どうなるかわからないところがあります。

(副会長)

逆に、いろいろな意見が聞けて良いのかと思います。例えば、支援センターの「かるがも」や「わらしこ」は市内でもとても頑張っているところだと思いますので、来ている人は満足していると思います。

(平田委員)

地区以外には何を基準にして、選んでいるのですか。

(事務局)

利用者の多いところなどを選んでいきます。

(会長)

前回の計画策定時も、地区別に、利用者の多いところで、いろいろなニーズを拾えるように選んでいます。

(副会長)

「わらしこ」はどちらかという中部になるので、変更してはいかがでしょうか。

(櫻庭委員)

確かに「わらしこ」は南部地区に位置していますが、生活圏は中部になるように思います。

(副会長)

南流山地区の生活圏にあるところにした方が良くと思います。

(事務局)

わかりました。南流山地区は支援センターも多いので、変更は可能です。

(山中委員)

就学児の学童クラブに、向小金小学校が挙がっていますが、東部地区で考えると東小学校の利用者が多いので、アンケートを取りやすいと思います。

(吉川委員)

アンケートは、どのくらいの期間配布して、どのくらいの回答を見込んでいますか。

(事務局)

アンケートの実施期間は、2週間程度を予定しています。数としては、集計の関係もあり、全体で300枚程度を想定していますが、希望者が多数いれば良いと思います。

(会長)

各施設20枚程度というイメージですね。
学童クラブの場所についてはどうしますか。

(事務局)

では、東小学校とさせていただきます。

(会長)

他にはありますか。

(吉川委員)

さくらんぼくらは公民館でやっていますよね。

(会長)

さくらんぼくらは、多胎児をテーマとしているので、地区は関係ないと思います。

(櫻庭委員)

子育て支援センターの「かるがも」ですが、前回もお父さんたちを対象としましたが、今回もその理解でよろしいですか。

(事務局)

はい。

(古宿委員)

ファミリー・サポート・センターの地区が北部になっていますが、ファミリー・サポート・センターは全地域を対象としていまして、北部地域の方だけを対象とするということですか。全部地域からですか。

(副会長)

地域は関係ないところですよ。

(事務局)

ファミリー・サポート・センターに関しては、地区を関係なく、アンケートを行いたいと思います。

(会長)

他は問題ないですか。特になければ、いくつかの場所が修正されましたが、この方向でいきたいと思います。

一つ意見ですが、別紙3のアンケート内容を見ますと、問1は、18歳未満の人数だけを答えるようになっていて、**フェース**シートがこれしかないので、例えば多胎児の保護者の方がどんな思いをもっているかがこれでは埋もれてしまいます。なので、会場ごとに番号を記入してはいかがでしょうか。そうしますと、多胎児など、それぞれのニーズがわかると思います。もちろん、多胎児の方がどんな思いを持っているかを全部公表する必要はないですが、施策の参考になるのではないかと思います。

他には、アンケートについてのご意見はありますか。

もう一点ですが、2ページからの設問に、「知っている」、「知らない」というのがありますが、問1の前に、「知っている」ということがどういうことなのか、という例を挙げておいたほうが良いと思います。例えば、この調査票で「知っている」とは、これらに関連するサービスを利用したことがある、もしくは、この利用者や事業者の声を聞いたことがある、としたほうが、これは満足度調査なので、利用してどうなのか、あるいは、利用した人の話を聞いてどう思ったのか、ということを知った方が良いと思います。

(副会長)

「知っている」の定義ということですね。

(会長)

はい。他はどうか。

(吉川委員)

アンケート回収方法ですが、アンケート箱に投函とは、また同じ場所に行かないと出せないということでしょうか。市内、どこのアンケート箱に入れてもよいのですか。

(事務局)

先ほど、会長から貴重なご意見をいただき、施設ごとに番号を振っていくことを考えていますので、箱を設置した場所のどこに投函していただいても結構です。また、施設ごとの具体的な配布、回収方法などは、個別にご相談させていただきたいと思います。

(副会長)

その場で回収しても良いのですよね。設置場所を決めるのであれば、どこで設置していますので、と明記してほしいです。

(会長)

意見ですが、一つ一つの利用者の人数が少ないので、量的な調査よりも、質的な調査として内容を把握した方が良いと思います。別紙3の、7ページの間21は、とても大事な設問ですが、この前に、ご利用されているサービスについてのご意見をお聞かせください、として、市全体のものを問22にしてはどうでしょうか。集計としては難しいかもしれませんが、利用者の方々の貴重な

ご意見ですので、ぜひご検討ください。他はいかがでしょう。

(平田委員)

就学前児童の保護者が問14～16、問17～19は就学児童以上だと思うのですが、両方該当する場合は全部回答するということですね。

(会長)

その通りです。

(平田委員)

見方の話なのですが、就学前児童の関係の問16の設問が次のページに入ってしまったので、わかりづらくて、難しく感じるのではないかと思います。主婦目線で考えると、設問の量が多いので、少しでもわかりやすいほうが良いと思います。

(会長)

知らないにつくことが多いかもしれないですね。

(平田委員)

そう思います。もしくは、このようなことがあるのだと、アンケートする中で学べると思います。

(会長)

就学前と就学児童を分けた理由は何ですか。

(事務局)

施策の内容によって、就学前と就学児童で分けました。また、用紙自体も分けようかと思いましたが、複数の子どもがいる場合は、二つ記入することになってしまうので、一つにしました。しかし、分かりづらいのであれば、特段分けて全員、全部の質問に答えるというのでも良いと思います。

(会長)

確かに、それも一つの方法ですね。3問ずつくらいなので、分けないのも良いかもしれないですね。分けないとなると順番は変わりますか。

(事務局)

計画の施策ごとに分けているので、順番は変わります。

(会長)

そうしたら、分けずに施策の順番に並び替えるというのも良いかもしれないですね。

(藤原委員)

良いと思います。就学前と就学児童と分けると、逆にわかりづらい気がします。なので、分けずに一連の流れとした方が良いでしょう。

(会長)

事務局はいかがですか。

(事務局)

計画の順番に並べ替えたいと思います。

(副会長)

子育て支援センターはどこに入るのですか。主な事業のところに入れたほうが良いと思います。

(事務局)

子育て支援センターは、「地域における子育て支援サービスの充実」に入ります。その他には、児童館・児童センターなどが入っています。

(山中委員)

問4の子育てグループの支援で想定しているのは、児童センターで行っている幼児グループとか、保育所の子育て支援センターですか。

(副会長)

計画を見ると子育て支援センターは、問3に当たりますね。

(会長)

アンケート箱を置くところは、記載しておいた方が良いでしょう。

(副会長)

子育て支援センターと子育てグループの支援の違いはわかりづらいですね。

(櫻庭委員)

子育て支援センターは、子育てグループを作ることを支援するということが、一つの役割であると思います。子育てグループを作るということは、そこにいるお母さんたちが、自分たちが支援してもらっただけではなく、お互いの子どもを見合う関係のグループを支援していくということです。

(会長)

そうすると、問3と問4を一緒にしてはどうでしょうか。原則として、という文言を入れて、施策の柱ごとに設問を設定した、とすれば問題ないと思います。施策についての見直しは、2年後の計画の見直し時にやれば良いと思います。もしくは、ファミサポにも箱を置くことにしていますから、ファミサポだけを独立させても良いと思います。

(藤原委員)

ファミサポは少し性質が違うのではないかと思います。

(櫻庭委員)

計画としては、子育てグループの支援ということで位置づけがありますが、まだ具体的なものは無いと思います。

(吉川委員)

では、問4はこのままにして、主な事業としてファミサポのことだけを書くというほうが分かりやすいかもしれないですね。

(会長)

では、そうしましょう。問4の主な事業の子育てグループの支援を削除して、ファミリー・サポート・センターだけにしましょう。他はいかがでしょうか。では、いくつか修正、訂正があったと思いますので、それを活かしてお願いします。

次に、子どものインタビューの話に移りたいと思います。子どもたちの設問内容や実施方法、実施場所についてご意見をよろしくお願いします。

(櫻庭委員)

子どもたちの声を聞くということはとても良いことだと思います。ただ、子どもたちに好きか、嫌いか、その理由を聞くだけではなく、どんな街にしたいかということも聞いてみたいと思うので、設問を増やしてほしいと思います。

(会長)

習志野市で実施したのですが、もし、市長さんになったらどんなことしたい、と聞きました。

(副会長)

問3は、本当に難しいと思います。子どもたちは、親の都合で流山に住んでいて、ここしか知らないので、好きとかは、自分の人間関係とかの状況の意見になってしまうと思いました。

(会長)

ワークショップはどのようなテーマでしたか。

(事務局)

ワークショップのときは、大人対象に流山は子育てしやすい街か、と聞いて、10点満点で評価してもらっています。そのあとは、流山の子育ての現状はプラスの要因、流山の子育ての課題はマイナス要因、解決策を聞いています。

(会長)

そのときと同じようなやり方で出来ませんか。今、自分が住んでいるところがどのくらい暮らしやすいかを1～10点で点数を付けて、プラス要因として、良いところを10個書いてもらい、また、マイナス要因として、こんなことがあったら良いなと思う、ことも書いてもらって、最後に市長になったらどんなことをやりたいかの上位3つを挙げてもらうようにする。このようなやり方はどうですか。

(吉川委員)

子どもたちに書いてもらうということですか。

(会長)

はい。おそらく、小学生は高学年ではないと難しいと思いますが。

(副会長)

どこの場所でやるかですね。学童クラブは、北部、中部と書いてありますが、場所は決まっているのですか。

(事務局)

まだ決まっていませんので、今回は地区のみの提示です。内容は、会長のご提案でいきたいと思いますが。

(副会長)

ファシリテーターが重要ですよ。どなたが聞かれるのですか。

(事務局)

職員で行うことしか、想定していませんでした。あとは、それぞれの施設でご協力していただければ、助かります。

(会長)

あと、自分たちが今、使っているところを聞かなければならないですね。アンケートと同じで、まずは、今の施設を利用してどう思うか、が最初に入ったほうが入りやすいかもしれないですね。

整理しますと、設問1は、学童クラブであれば、学童の生活についてどう思いますか。二つ目は、流山の子どもたちの居場所について、流山をどのくらい好きですかを10段階くらいで点数化してもらって、どんなところが良いですか、ここはこうなってほしいな、というところを挙げてもらって、最後に、プラスのところを増やして、マイナスのところを減らしていくには何をしたらよいかについて、インタビューをするという形はいかがでしょうか。もしくは、最後に、子どもたちに夢を語ってもらうならば、どんなものがあると良いかを聞いても良いですね。

(副会長)

市長になったらという風に聞くのも良いと思います。

(会長)

そうですね。解決策のところは、そのようにしてもよいですね。それでは、このような内容でよろしいでしょうか。ありがとうございます。これを出来れば、中学生、高校生まで出来れば良いですね。

(山中委員)

児童センターには高校生はいないと思いますが、中学生は遊びに来ています。

(吉川委員)

高校生は、流山市民ではない可能性もあります。

(会長)

そうですね。児童館は、18歳まで利用できますが、そうしたら、中学生までにしますか。

(藤原委員)

児童センターを、以前、利用していた中学生が来て遊んでいます。

(会長)

それでは、方式と内容はこれで良いでしょうか。

(吉川委員)

生涯学習イベントに参加する子どもたちというのは、何ですか。

(事務局)

生涯学習課で担当しているイベントが2月頃に実施されるようなので、施設に来ていない子どもの意見として挙げました。

(会長)

インタビューが出来るならやりましょう。あと、児童館・児童センターのところに、小学生だけではなく、中学生も加えてください。

はい、それではスケジュールについてもご意見がありましたら、お願いします。

私から意見ですが、スケジュールの中で、中間年度のアンケートやグループインタビューはもう少し規模の大きいものになるのでしょうか。

(事務局)

平成29年度は計画の見直しを予定しています。現在、未確定ですが、平成29年度の予算を要望していきたいと考えています。そのときは、計画策定時のニーズ調査と同様の規模が出来れば良いと思います。平成30年度には、新計画に向けてニーズ調査を行う予定ですが、計画を作成したときと同じようなニーズ量の把握、量の見込み、確保方策を行い、その際にはワークショップなどを行っていく予定です。

(会長)

平成30年度の調査は、計画策定時と同じ規模の予算を確保していきたいということですね。また、平成29年度の間見直しの時には、その規模を目指

して予算要求をしていくということで、ぜひご尽力、よろしくお願いします。

議題についてはこれでよろしいでしょうか。よろしければ、その他について事務局から何かありますか。

(事務局)

《公園利用について、事務局説明》

(会長)

ありがとうございました。どうですか。

(櫻庭委員)

日程調整を特別、市の方でやっていただくのではなく、当事者同士で話し合うということですよ。

(事務局)

基本的には、当事者間で調整をしていただくようになっています。

(櫻庭委員)

このようなシステムを作っていただいて、以前よりは話し合いしやすいのかもしれませんが、実際の話を見ると、先に使っていた団体に優先権があるような状況になっていて、西初石近隣公園だけでなく、その他の公園も同じような状況と聞いています。話し合ってくださいとだけだと、元々、利用していた方の主張が強くなってしまい、難しく感じています。

(事務局)

もし、先に利用していた団体から優先的に、と言われるようであれば、みどりの課にご相談ください。市としても、公園は全ての人に利用していただく場所ですので、そのように言われるのであれば、市の方から注意して、解決するようにしたいと思います。

(会長)

問題が起きれば、市が介入することになると思います。そのかわり、届出はしっかり出すようにお願いします。

(副会長)

団体同士の話し合いの場を設けることは出来ないのですか。

(吉川委員)

そうですね。みどりの課で、利用者会議のようなことは出来ないのですか。

(事務局)

直接、みどりの課にご相談いただければ、団体同士で解決できない場合は、顔合わせて話し合いをするしかないです。

(副会長)

お互いのことを知ることは大事だと思います。高齢者の居場所も大事ですし、子どもの外遊びの場も必要だと思います。市が保育所に力を入れているのですから、保育園児の外遊びの確保ということも、市も考えてほしい。

(事務局)

みどりの課との調整もありますので、今日ここで結論は出せないと思います。子ども子育て会議の役割としては、諮問答申、提言ということもできます。一歩進むには、会議の方からご提言という形でいただいた方が良いかと思います。

(会長)

それでは、基本的なスタンスとしては、市として保育所を作っていないといけない状況にある。しかし、全て園庭が確保できているわけではない。その場合、近くの公園を園庭代わりに使用するのは子どもたちの健全育成上、大事である。そのときに、他の利用者の方々と調整していくためには、市に、利用について調整できるシステムを作してほしい、というような文面にさせていただいて、それを意見具申するというところでどうでしょうか。

(事務局)

一度、会長、副会長には案の段階で送付させていただいて、次回の会議で再度ご意見いただければと思います。

(会長)

そのようにお願いします。その他はありますか。

(事務局)

次回の会議は12月18日(金)午前10時から、庁議室にて、予定したいと考えております。会議資料については、会議が行われる1週間ほど前に送付させていただきますので、事前にご確認ください。また、当日欠席される方は

事前に事務局までご連絡ください。

事務局からは、以上でございます。よろしく申し上げます。

(会長)

以上で本日の議事を終了いたしますが、最後に何か御質問などはございませんか。以上をもちまして終了いたします。ご協力ありがとうございました。